

幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅳ

— 異なる学年の学生の音楽意識を通して —

*A Study of Music Tuition from Relation between Kindergarten,
Nursery and Elementary school (IV)*

— *A Music Consciousness of Student Different Grade* —

星野 英五 HOSHINO Eigo

(教育学部)

I. 動機

名古屋芸術大学教育学部子ども学科は、人間発達学子ども発達学科の15年の歴史を引き継ぎ、2023年度で2年目を迎えている。急速に変化し多様化する教育課題と向き合い、それらに対応できる専門性を備えた「幼稚園教諭」「保育士」「保育教諭」「小学校教諭」の養成を目指し、教育・保育の現場で求められる専門性を身につけるための7つのコースを設置している。

今年度5月、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へと移行され、保育・教育現場や大学の授業はコロナ前の日常の生活にもどりつつある。しかし保育・教育現場において、子どもや学生、保育・教育者が各々困難な保育教育実践を強いられていると言っても過言ではない。アフターコロナを見据え、益々芸術・音楽が持つ力を再確認することが必要である。

Society5.0の到来を迎え、子どもを取り巻く社会環境も情報ネットワークが急速に拡張している。既に小学校では一人一台タブレットが導入され、ICT機器の活用は「個別最適な学び」を実現する一助になって定着している。子どもたちにとって様々なメディアを通して音楽に触れることは簡単な時代を迎え、保育・教育者自身が良い音楽や映像の選択をすることが重要な課題になってくる。子どもの音楽的環境において、配信音楽に親しんだ子どもたちは様々な歌が洪水のように耳に入る。その一方で、子どもの日常の遊びや生活から生まれ、作者も成立年代も不詳であるが祖父母から孫へとという縦の系路と子どもの遊び集団という横の系路を通じて変容をほどこされ継承されてきた日本古来の伝統的な音楽は影を潜めてしまっている。

本研究は、1年次「音楽」と2・3年次「小学校音楽科指導法」での授業で共通した質問紙を通して、「望ましい幼保小の音楽活動の連携方法の自由記述」「幼児期のプログラミング教育の準備の自由記述」「音楽的保育・教育観」「音楽的保育者・教育者」について比較検討するものである。

今までの研究から、保育者は小学校の教育と保育は全く別のものと考え、個別の保育方針を持つ園も多く、音楽教育にかなりの差があることが否めないことが分かった（星野、

2021)。幼稚園等保育施設の中には、社会の変化等に対応していこうとする意識が必ずしも十分になく、家庭・地域社会あるいは小学校等との連携を密にすることや家庭への支援に充分に取り組まなかったものもあったのではなかろうか。

具体的には、コロナ禍の中で変化する大学授業環境の中で学習してきている異なる学年の音楽意識を比較し、激変する時代の変化に対応できる学生の音楽教育能力への向上に結びつけるものである。

II. 研究方法

対象：2021年度1年次「音楽」履修学生43名

2021年度2・3年次「音楽指導法」履修学生26名

時期：「教科音楽」履修学生（必修）2021年7月

「音楽指導法」履修学生（選択）2021年12月

方法：一斉による質問紙調査

III. 研究内容と考察

(1) 年長後半と小学校前半の音楽の連携方法

表1 望ましい幼保小の音楽活動の連携方法（自由記述）

【1年】教科音楽履修者

- ・日常生活の中で大きな声で歌える方法を覚える
- ・リズムに合わせて踊ったり歌ったりする
- ・音楽の楽しさや美しさを理解する
- ・幼稚園・保育所・こども園では基本的な音楽活動を行い小学校に結びつける
- ・行事の時に歌を歌ったりして楽しむ
- ・年長児と小学校1年生と同じ歌を歌うようにする
- ・年長時に高いレベルの音楽を示し小学校で実践する
- ・年長児に音符や楽譜に触れさせる
- ・リズム遊びを大切にダンスをしたりピアノの音を聞かせる
- ・動物の真似をしたりして自由な発想を育てる活動をする
- ・得意不得意に配慮し全員のできる音楽活動をする
- ・小学校でのリコーダー・ハーモニカの準備の為に年長児は楽器演奏する

【2・3年】小学校音楽科指導法履修者

- ・楽器を楽しむ事が大切で幼少期にカスタネット等から始める
- ・幼稚園・保育所・こども園の園児が、小学生が歌っているところを見学に行く
- ・個人で取り組む音楽より全体で取り組む楽器などの活動が大事だと思う
- ・幼児期は音楽を学ぶのではなく楽しむことがよいと思う
- ・年長児は小学校で初めに歌う歌に触れておく
- ・小学校1年次はわらべ歌など親しみやすい内容を取り入れる
- ・小学校では歌う歌や取り扱う楽器等、音楽活動を発展させる
- ・幼稚園・保育所・こども園では簡単な歌を歌ったりリズム活動が中心だと思う
- ・小学校1年生から少しずつ内容を深めて音程、リズム感など獲得する
- ・リズム遊びや楽器演奏等少しずつ音楽の技術を取り入れる

表1は、年長後半クラスと小1前半クラスの音楽活動の連携方法を「教科音楽」「小学校音楽科指導法」に分けて主な自由記述をまとめたものである。

教科音楽では「日常生活の中で大きな声で歌える方法を覚える」「音楽の楽しさ美しさを理解する」「基本的な音楽活動を行い小学校に結びつける」「年長児に音符や五線に触れさせる」といった実習経験が少なく理論と実践が結びついていない為か、漠然とした幼児小連携のイメージを持つ記述が多い。

音楽科指導法では、「楽器を楽しむ事が大切で幼少期にカスタネット等から始める」「幼稚園・保育所・こども園の園児が、小学生が歌っているところを見学に行く」「小学校1年次はわらべ歌など親しみやすい内容を取り入れる」「年長児は小学校で初めの方で歌う歌に触れる」「小学校1年生から少しずつ内容を深めて音程、リズム感など獲得する」といった今までの学習経験と実習経験の結びつきを活かしてより具体的な記述が多くなってきている。

(2) 幼児期の音楽プログラミング教育導入の準備

表2 幼児期のプログラミング教育の準備

<p>【1年】教科音楽履修者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の音楽に触れた後、プログラミング教育が始まり自分の考え持つ ・実際に楽器で音を出し、画面に五線音符が出てくる方法 ・一人ひとりの子どもに合わせた形が理想で音楽に触れる ・iPadを使ったものがよい。集中して何かを見る特訓をする ・音楽を楽しみと思える環境作りを行い、音楽を嫌いにさせない ・音楽に合わせた活動の画像を画面共有し、子ども達に見やすいようにする ・色々な楽器の音が出せて、その楽器に興味を持たせる
<p>【2・3年】小学校音楽科指導法履修者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを一人一台渡して取り組むことが望ましい ・自分で音楽を作る時に様々な楽器の音が出るものを用いる ・パソコンやタブレットで音を自分で組み合わせる作曲活動をする ・音やリズムを理解しコンピュータを使って自分で音楽を作ってみる ・自宅で歌の練習を行い録音する為タブレットに慣れておく ・メロディーに伴奏をつけたり曲を作って友達と聞き合う ・自分で音源を作る事が望ましい、音楽の楽しさを知る準備をする

表2は、音楽でプログラミング教育を導入するとしたらどのような形が望ましいかを「教科音楽」「小学校音楽科指導法」に分けて主な自由記述をまとめたものである。

教科音楽では「生の音楽に触れた後プログラミング教育が始まり自分の考え持つ」「一人ひとりの子どもに合わせた形が理想で音楽に触れる」「iPadを使ったものがよい。集中して何かを見る特訓をする」「色々な楽器の音が出せてその楽器の興味を持たせること」といった導入段階の記述が多く、子どもの活動が把握できていない中での想像的な活動の記述が多いと思われる。

入学して間もない学生には、日々変化していく音楽教育の実態を、いかに分かりやすくプログラミング教育導入を理解させることが課題の一つになっている。

音楽科指導法では、「タブレットを一人一台渡して取り組むことが望ましい」「自分で音楽を作る時に様々な楽器の音が出るものを用いる」「パソコンやタブレットで音を自分で組み合わせる作曲活動をする」「メロディーに伴奏をつけたり曲を作って友達と聞き合う」「自分で音源を作る事が望ましい、音楽の楽しさを知る準備をする」といった、より実践を含んだ記述内容が多い。

実習経験が既にある学生も多く、音楽プログラミング教育がどのようなものかをある程度理解する力を持っている。プログラミング教育の内容を正しく理解することができるように授業の中で新しい小学校音楽の授業形態がより分かる方法をさらに模索していかなくてはならないと考える。

(3) 大学の授業で重視した方がよいこと

表3 大学の授業で重視したいもの

【1年】教科音楽	保育者養成	小学校教育
1. 音程やリズムに気をつけて歌える	23名(53.5%)	22名(51.2%)
2. 歌詞を理解し子ども達の心を育てる説明ができる	24名(55.8%)	<30名(69.8%)
3. 唱歌や童謡が歌える	30名(69.8%)	26名(60.5%)
4. 伝統的なわらべ歌で遊ぶ	25名(58.1%)	>16名(37.2%)
5. ピアノやエレクトーンの演奏技能(伴奏)を高める	19名(44.2%)	14名(32.6%)
6. 生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を知る	37名(86.0%)	>25名(58.1%)
7. 音楽理論が分かる	9名(20.9%)	<15名(34.9%)
8. プログラミング教育をにらんでICTを活用できる	8名(18.6%)	<17名(39.5%)
【2・3年】音楽科指導法	保育者養成	小学校教育
1. 音程リズムに気をつけて歌える	10名(38.5%)	<20名(76.9%)
2. 歌詞を理解し子ども達の心を育てる説明ができる	5名(19.2%)	<22名(84.6%)
3. 唱歌や童謡が歌える	15名(57.7%)	17名(65.4%)
4. 伝統的なわらべ歌で遊ぶ	16名(51.4%)	>26名(23.9%)
5. ピアノやエレクトーンの演奏技能(伴奏)を高める	18名(61.5%)	13名(50.0%)
6. 生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を知る	24名(92.3%)	>11名(42.3%)
7. 音楽理論が分かる	3名(11.5%)	<11名(42.3%)
8. プログラミング教育をにらんでICTを活用できる	2名(7.7%)	<16名(61.5%)

表3は、大学の授業で重視した方がよいことを「教科音楽」「小学校音楽科指導法」に分けて『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものである。

教科音楽では「4. 伝統的なわらべ歌で遊ぶ」「6. 生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を知る」で教員養成より保育者養成で高く($p<.05$)、「2. 歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる」「7. 音楽理論が分かる」「8. プログラミング教育をにらんでICTが活用できる」が保育者養成より小学校教育で高い($ps<.05$)。

音楽科指導法では、「5. ピアノやエレクトーンの演奏技能（伴奏）を高める」「4. 伝統的なわらべ歌で遊ぶ」「6. 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につけるため歌を知る」で教員養成より保育者養成で高く（ $p<.05$ ）、「1. 音程やリズムに気をつけて歌える」「2. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるような説明ができる」「7. 音楽理論が分かる」「8. プログラミング教育をにらんで ICT を活用できる」が保育者養成より小学校教育で高い（ $ps<.05$ ）。

保育と小学校の違いを認識する傾向は両者とも基本的に同じではあるが、学習を重ねるごとにプログラミング教育をにらんで ICT の活用することやより高度な音楽教育である音程・リズム・理論は、小学校教育で重視すべきであると認識が強くなっているであろう。音楽の基礎教育を行う保育の中の音楽、それを基盤として小学校以降の音楽教育に含まれていくより高度な音楽を学生に正しく理解させ、音楽コンピテンシー・ベースを視点に考えていく時代を迎えてきていると考える。

(4) 音楽的保育観・教育観

表 4 音楽的保育観・教育観

【1年】教科音楽	保育	教育
1. 楽しく音楽に関り音楽に興味・関心を持たせる	31名(72.1%)	33名(76.7%)
2. 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ	31名(72.1%)	26名(60.5%)
3. 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する	28名(65.1%)	28名(65.1%)
4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるようにする	19名(44.2%)	<27名(62.8%)
5. 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関りを大切に	34名(79.1%)	31名(72.1%)
6. おだやかなメロディーは優しさ思いやり育む	31名(72.1%)	29名(67.4%)
7. 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるように	17名(39.5%)	<24名(55.8%)
8. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	26名(60.5%)	28名(65.1%)
9. 唱歌や童謡を歌えるように	29名(67.4%)	23名(53.5%)
10. CDなどの音響機器は音質の良いもの選ぶ	23名(53.5%)	38名(34.9%)
11. 音楽環境が子どもの心理状態に影響する	36名(33.9%)	37名(33.9%)
12. 伝統的なわらべ歌遊びは日常的に取り入れるように	17名(39.5%)	>10名(23.3%)
13. 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を取り入れる	37名(86.0%)	>24名(55.8%)
14. 英語の歌を子ども達に歌わせる	8名(18.6%)	<18名(41.9%)
15. プログラミング教育をにらんで ICT を活用する	5名(11.6%)	<12名(27.9%)
【2・3年】小学校音楽科指導法	保育	教育
1. 楽しく音楽に関り音楽に興味・関心をもたせる	24名(92.3%)	22名(84.6%)
2. 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ	18名(69.2%)	18名(69.2%)
3. 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する	16名(61.5%)	16名(61.5%)
4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるようにする	6名(23.1%)	<20名(76.9%)
5. 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関りを大切に	18名(69.2%)	>14名(53.8%)
6. おだやかなメロディーは優しさ思いやり育む	15名(54.4%)	16名(61.5%)
7. 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるように	8名(30.8%)	<16名(61.5%)
8. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	14名(53.8%)	<19名(78.1%)
9. 唱歌や童謡を歌えるように	16名(61.5%)	<20名(76.9%)
10. CDなどの音響機器は音質の良いもの選ぶ	11名(42.3%)	<15名(57.7%)
11. 音楽環境が子どもの心理状態に影響する	16名(61.5%)	16名(61.5%)
12. 伝統的なわらべ歌遊びは日常的に取り入れるように	19名(73.1%)	>11名(42.3%)

13. 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を取り入れる	22名(84.6%)>12名(46.2%)
14. 英語の歌を子ども達に歌わせる	6名(23.1%)<13名(50.0%)
15. プログラミング教育をにらんで ICT を活用する	2名(7.7%)<12名(46.2%)

表4は、音楽的保育・教育観を「教科音楽」「小学校音楽科指導法」に分けて『非常に重要だと思う』と回答したものである。教科音楽では「12. 伝統的なわらべ歌で遊びは日常的に取り入れるようにする」「13. 生活習慣を身につける歌を取り入れる」で小学校教育より保育で高く ($p<.05$)、「4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てる」「7. 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるようにする」「14. プログラミング教育をにらんで ICT を活用する」「15. 英語の歌を子ども達に歌わせる」が保育より小学校教育で高い ($ps<.05$)。音楽科指導法では、「5. 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関りを大切にする」「12. 伝統的なわらべ歌で遊びは日常的に取り入れるようにする」「13. 生活習慣を身につける歌を取り入れる」が小学校教育より保育で高く ($ps<.05$)、「4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるようにする」「7. 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるようにする」「8. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる」「9. 唱歌や童謡が歌えるようにする」「10. CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ」「14. 英語の歌を子ども達に歌わせる」「15. プログラミング教育をにらんで ICT を活用する」が保育者養成より小学校教育で高い ($ps<.05$)。

保育・教育観においても、保育と小学校の違いを認識する傾向は基本的に同じではあるが、学習を重ねていくごとに歌の歌詞の理解を土台に様々なジャンルの音楽や唱歌・童謡を取り入れたり音質環境の向上が強くなっている。半面、生活の中の音や音楽との関りは小学校では低くなっている。歌う活動のスキルの強化も小学校では求め始めている。小学校において「かもつれっしゃ」「リズムゲーム」「わらべ歌遊び」等ウォーミングアップ的な常時活動を取り入れ音楽活動を積み上げるための工夫をシクラスのコミュニケーション力や集団性を培うことができる小学校教員を養成していきたい。また、プログラミングを伴う ICT 活用の意識は GIGA スクール構想が進んでいるために強くなっていると考ええる。

(5) 音楽的保育者観・教育者観

表5 音楽的保育者観・教育者観

【1年】教科音楽	保育者	教育者
1. 音楽に合わせて体を動かす事ができる	29名(67.4%)	26名(60.5%)
2. 子どもの発達に合った音楽指導ができる	27名(62.8%)	27名(62.8%)
3. 子どもに合わせて伴奏できる (ピアノ・エレクトーンで)	13名(30.2%)	14名(32.6%)
4. 音楽が好きである (歌うことを楽しむ・鑑賞などする等)	27名(62.8%)	26名(67.4%)
5. リズム感がよい	28名(65.1%)	62名(60.5%)
6. 生活の中にある音に耳を傾け音の面白さに気付く	24名(55.8%)	21名(48.8%)
7. 歌詞を理解し、子ども達の心を育てる説明ができる	24名(55.8%)	26名(60.5%)
8. 唱歌や童謡を歌えるようにする	32名(74.4%)>23名(51.2%)	

9. 響きのあるきれいな声で歌える	13名 (30.2%)	<22名 (51.2%)
10. 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる	18名 (41.9%)	<24名 (55.8%)
11. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	22名 (51.2%)	<28名 (65.1%)
12. 手・指遊びが上手である	29名 (67.4%)	>17名 (39.5%)
13. 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を教える	33名 (76.7%)	>23名 (53.5%)
14. 鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる	13名 (30.2%)	14名 (32.6%)
15. 英語の歌（簡単な）を子ども達に教えることができる	15名 (34.9%)	<26名 (60.5%)
16. コンピュータ利用し音楽活動に役立てる能力がある	6名 (14.0%)	10名 (23.3%)
<hr/>		
『2・3年』小学校音楽科指導法	保育者	教育者
1. 音楽に合わせて体を動かす事ができる	20名 (76.9%)	17名 (65.4%)
2. 子どもの発達に合った音楽指導ができる	15名 (57.7%)	20名 (76.9%)
3. 子どもに合わせて伴奏できる（ピアノ・エレクトーンで）	16名 (61.5%)	>11名 (42.3%)
4. 音楽が好きである（歌うことを楽しむ・鑑賞などする等）	13名 (50.0%)	10名 (38.5%)
5. リズム感がよい	16名 (61.5%)	18名 (69.2%)
6. 生活の中にある音に耳を傾け音の面白さに気付く	12名 (46.2%)	>11名 (42.3%)
7. 歌詞を理解し、子ども達の心を育てる説明ができる	10名 (38.5%)	<17名 (65.4%)
8. 唱歌や童謡を歌えるようにする	18名 (69.2%)	17名 (65.4%)
9. 響きのあるきれいな声で歌える	5名 (19.2%)	<12名 (46.2%)
10. 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる	5名 (19.2%)	<17名 (65.4%)
11. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	12名 (46.2%)	<19名 (73.1%)
12. 手・指遊びが上手である	17名 (65.4%)	>7名 (26.9%)
13. 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を教える	23名 (88.5%)	>12名 (46.2%)
14. 鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる	5名 (19.2%)	<6名 (23.1%)
15. 英語の歌（簡単な）を子ども達に教えることができる	3名 (11.5%)	<11名 (42.3%)
16. コンピュータ利用し音楽活動に役立てる能力がある	5名 (19.2%)	<11名 (42.3%)

表5は、音楽的保育者・教育者観を「教科音楽」「小学校音楽科指導法」に分けて『非常に重要だと思う』と回答したものである。教科音楽では「8. 唱歌童謡歌えるようにする」「12. 手・指遊びが上手である」「13. 生活習慣を身につける歌を教える」で小学校教育より保育で高く ($p<.05$)、「9. 響きのあるきれいな声で歌える」「10. 個々の子どもの音楽的能力把握できる」「11. 様々なジャンルの歌を取り入れる」「15. 簡単な英語歌子ども達に教える」が保育より小学校教育で高い ($ps<.05$)。音楽科指導法では、「3. 子どもに合わせてピアノ EL で伴奏できる」「6. 生活の中の音に耳傾け面白さ気付く」「12. 手・指遊びが上手である」「13. 生活習慣を身につける歌教える」で小学校教育より保育で高く ($p<.05$)、「7. 歌詞を理解し心を育てる説明ができる」「9. 響きのあるきれいな声で歌える」「10. 個々の子どもの音楽的能力把握」「11. 様々なジャンルの歌取り入れる」「14. 鍵盤楽器以外の楽器ができる」「15. 簡単な英語の歌を子ども達に教える」「16. コンピュータ利用し音楽活動」が保育より小学校教育で高い ($ps<.05$)。手・指遊びや生活習慣の為の歌の教え方は保育者に重視され、響きのある声や個々の音楽能力把握や様々な歌の取り入れ、簡単な英語の教え方は小学校教員に重視されている。

保育者・教育者観において傾向は両者とも基本的に同じではある。1年次において保育者は唱歌や童謡が歌えることの重要度が強く、2・3年次になると生活の中にある音に耳を傾

ける面白さに気付くことの重要度に気づいている。小学校教員には歌詞を理解し心を育てる説明やコンピュータを利用した音楽活動が重要である意識が強くなっている。保育者は基本的な素養や感性が求められ、小学校教員は高度な素養や能力が必要になるという意識があると推察する。

IV. まとめ

音楽教育において幼稚園・保育所・こども園で培うであろう豊かな感性や表現する力をベースにした基本的な知識・技能に加えて、小学校では創造的で独創性と否認知的能力を培う力の向上が必要になってくる。他者に教えてもらわなければ音楽ができないのではなく、自分自身で音楽を楽しめる力を育てることが必要である。どの年代の音楽活動においても、音そのものの響きや組み合わせを大切に、思いや意図を持った音遊びや即興表現ができる「音楽作り」を大切にすべきであろう。

「幼稚園・保育所・こども園では基本的な音楽活動を行い小学校に結びつける（表1）」の自由記述のように、学生は音楽の基礎は幼少時に行い小学校からはその基盤をさらに発展させるという意識はある。「生の音楽に触れた後プログラミング教育が始まり自分の考えを持つ（表1）」の自由記述のように、音楽を大切にしながらICTをいかに有効に使うことが今後の幼保小連携の音楽教育の鍵になるであろう。直接体験を大切に幼稚園・保育所・こども園でもICT導入段階を模索する必要がある。

SNSの流行は音楽教育にも強く影響している。アフターコロナの時代だからこそ、子どもや学生の音楽活動のセレンディピティを引き出したい。発達や学びの連続性を踏まえた幼保小連携の意識を学生に高めさせ、音楽においても明確なエビデンスを持った教育をさらに考える必要がある。

小学校では不登校児童の増加が騒がれている。幼児は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培う。このような特質を有する幼児教育は、小学校以降の教育と比較して「見えない教育」と言われることもあるが、幼児教育に関わるに当たり、家庭や地域社会では、幼児の持つ良さや幼児の可能性の芽を伸ばす努力が求められる。また、小学校以降における教科の内容等については、実感を伴って深く理解できることにつながる「学習の芽生え」を育むことが大切である。

幼稚園等施設における保育者には、幼児一人一人の内面にひそむ芽生えを理解し、その芽を引き出し伸ばすために、幼児の主體的な活動を促す適当な環境を計画的に設定していかなくてはならない。幼児の発達や生活には、家庭・地域社会・幼稚園等施設の中での連続性があるにもかかわらず、幼児教育において三者の連携や補完が必ずしも十分ではない。

「音楽教育とウェルビーイング」「資質・能力の三つの柱」「幼児期までに育ってほしい10の姿」を適切に捉えて音楽を保育に活かし、子どもの育ちや学びを幼稚園等施設から

小学校へとつなげていくことができているのであろうか。

小学校教員は、小学校学習指導要領の共通事項をよく読み取り、音楽を楽しむところまでいく目的をもって子どもの指導できるような力が必要になってくると考える。

教育学部は、建学の精神にのっとり、小学校や幼稚園・保育施設等における芸術大学らしい完成に富んだ有為な教育者、保育者等を育成することを目的としている。

1年次「教科音楽」の授業では、子どもの乳児期から児童期までの幅広い発達段階の特徴を映像を交えて、保育所保育指針・幼稚園教育要領・教育保育要領・小学校学習指導要領に関連づけて説明する。さらに2年次「小学校音楽指導法」の授業では、まず学生自身が考える独自の現代の子どもに音楽に対して興味を持って楽しめるような、音楽の要素を全身で感じさせることができる模擬授業を考えさせたい。

現代の時代に即した子ども達に寄り添える音楽を提供できる保育・教育者を養成し、アフターコロナに向けた時代の音楽教育をさらに検討していきたい。

引用文献

星野英五 2019「幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅱ—学生と保育者の音楽意識の比較から—」

名古屋芸術大学研究紀要 第40巻 265-273

星野英五 2021「幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅲ—保育者の音楽意識を通して—」名古屋芸術

大学研究紀要 第42巻 297-306

参考文献

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説音楽編 文部科学省

「文部科学省中央審議会（2005）子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育のあり方について（答申）」

「音楽の授業でたいせつなこと」中島寿他著 東洋出版

追記

本調査は名古屋芸術大学研究倫理委員会の承認を受けて実施しており、本稿は日本保育学会第75回大会発表論文集「学生の音楽意識Ⅳ」を転載・改稿し内容を深めたものである。

質問紙

I. あなたの免許・資格取得について

① あなたはどの資格・免許を取得希望しますか。○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 体育士資格 3. 小学校教諭免許 4. その他（ ）

② あなたの就職希望は、現在、どれにあてはまりますか。○をつけて下さい。

1. 幼稚園 2. 保育所（園） 3. こども園 4. 小学校 5. 施設関係 6. その他（ ）

II. 子どもの幼稚園・保育園時代と小学校の音楽活動の考え方について

① 幼保小連携で大事なことの1つは、年長クラスの後半と小1クラスの前半でつながりのあったカリキュラムを作ることと言われています。音楽活動ではどんな方法が望ましいと考えられると思いますか。

② 子どもの幼稚園・保育園時代の音楽活動と小学校の音楽活動はどのように違うと考えますか。

- ③ 小学校において2020年からプログラミング教育が導入されます。音楽でプログラミング教育を導入するとしたらどのような形が望ましいと思いますか。また、それに向かい幼児期にはどのような準備が必要だと思いますか。

Ⅲ. 保育者養成（保・幼）・教育者養成（小学校）の大学の授業について

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。

- 4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者（幼・保）教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。（1）ピアノやエレクトーンの演奏技能（伴奏）を高める（2）音程やリズムに気をつけて歌える（3）歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる（4）伝統的なわらべ歌で遊ぶ（5）音楽理論が分かる（6）唱歌や童謡を歌える（7）生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を知る（8）プログラミング教育をにらんでICTを活用できる

Ⅳ. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者（幼・保）教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1)音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する（2）楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心を持たせる（3）音楽環境が子どもの心理状態に影響する（4）様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる（5）おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ（6）伝統的なわらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする（7）生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を取り入れる（8）歌詞を理解し、子ども達の心を育てるようにする（9）唱歌や童謡を歌えるようにする（10）歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ（11）子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切にする（12）CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ（13）楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるようにする（14）プログラミング教育をにらんでICTを活用する（15）英語の歌を子ども達に歌わせる

Ⅴ. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について（あなたの勤務先に関わらず両方答えて下さい）

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生について、次の項目はどの程度必要であると思いますか。

- (1)音楽が好きである（歌うことを楽しむ・鑑賞などする等）（2）生活の中にある音に耳を傾け音の面白さに気付く（3）英語の歌（簡単な）を子ども達に教えることができる（4）様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる（5）音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる（6）生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につけさせる歌を教えることができる（7）子どもの発達に合った音楽指導ができる（8）歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる（9）唱歌や童謡を歌えるようにする（10）響きのあるきれいな声で歌える（11）鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる（12）手・指遊びが上手である（13）リズム感がよい（14）子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで）（15）音楽に合わせて体を動かすことができる（16）コンピュータを利用し音楽活動に役立てる能力がある

どうもありがとうございました。